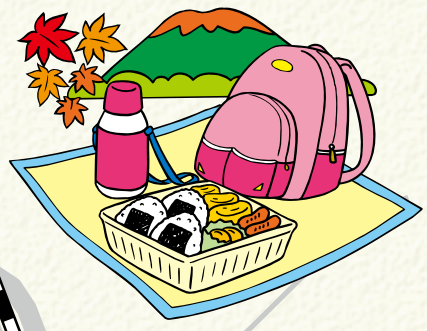
相模線沿線ハイキング 座間コース



⑦ れんげの里あらいそ（チェックポイント2）

高齢者の健康づくりをはじめ、レクリエーション活動の場である「新磯ふれあいセンター」、青少年の健全育成を目的とした「新磯こどもセンター」及び相模の大凧文化の保存・継承を目的とした「相模の大凧センター」の三施設が複合した建物で、子どもから高齢者までがともに学び、体験、交流できる施設として平成15年に開館しました。

① 浄土寺（じょうどじ）

由緒によると元亀年間(1570～72)に源誉聞悦（げんよもんえつ）によって開山されたと伝えられています。創建時の堂宇は洪水で流出し、現在の場所に再建されたとも伝えられています。また、浄土寺には現在確認する中で、市内で最も早く寺子屋を開いて近在の子弟の教育をしたといわれる師匠・保田安兵衛（鳥取県出身）の供養塔（座間市指定重要文化財）が境内に安置されています。

⑧ 磯部頭首工（いそべとうしゅこう）

この頭首工（堰）は、昭和初期に計画された相模川左岸用排水改良事業の一環として昭和15年に竣工されたものです。ここから取水された水は延長28キロにも及ぶ幹線水路を流れ、相模原市域のみならず、座間・海老名・茅ヶ崎などの広大な水田を潤しています。

② 星谷寺の梵鐘（しょうこくじ ぼんしょう）

坂東八番の札所（ふだしょ）である星谷寺には、昭和42年、国の重要文化財に指定された逸品の梵鐘があります。「嘉禄（かろく）三年」（1227年）と刻まれており、全国でも50番目、関東以北では茨城県土浦市の等覚寺の建永年間（1206～1207）に次いで２番目に古いものとされています。
さらに、鐘を撞く際の撞座（つきざ）が１ヶ所のみであることから、江戸時代より「奇鐘（きしょう）」として有名です。

⑨ 相模原市磯部民俗資料館（さがみはらしいそべみんぞくしりょうかん）

先人の遺産を後世に伝え残していくことを目的に、昔の生活用品、農耕具、古民具や帆かけ舟など、この地域に伝わる伝統行事の写真などの収蔵展示保管場所として、野頭謙一氏（故人）の住居敷地内にある納屋を改修して昭和57年に開館しました。
現在は約800点の収蔵品が展示され、市内の小中学校の生徒や地域内外から多くの方々が見学に訪れています。

③ 鈴鹿明神社（すずかみょうじんじゃ）（チェックポイント1）

由緒によると、欽明天皇の時代（539～571）に、伊勢国鈴鹿郷の神社例祭に神輿が海上を渡御していたときに嵐に遭い流されて、当時入り海だったこの地に漂着したものを人々が祀ったものと伝えられています。入谷地区の総鎮守（そうちんじゅ）で、明治２年には県下27ヵ村（現座間市及び相模原市・海老名市・大和市の一部）の郷社に列せられました。また、神社本殿の東側からは千五百年以前の地下式住居跡が発見されています。

⑩ 三段の滝（展望広場）（さんだんのたき）

「三段の滝」は鳩川の水量調節のため、流れの一部を相模川に注ぐための分水路で、完成は昭和８年でしたが、現在のものは昭和63年に新設されました。
隣接する展望広場や段丘の上からは相模川の眺望が開け、遠く対岸の風景を見渡せます。階段を降りると芝生広場が広がり、ゆっくりと川を見渡しながら休憩することができます。

④ 湧水と歴史の里　鈴鹿長宿（ゆうすいれきしのさとすずかながじゅく）

鈴鹿・長宿の街なみは、都市化が進む座間市のなかでも旧市街地の面影を残す数少ない地区で、各住宅敷地の豊富な庭木や、周辺の斜面緑地、湧水が良好な街なみを形成しています。
また、この美しい街なみを形成・保全するため、住民の方々が主体となって整備を行う「まちづくり協定」を締結しています。

⑤ 番神水湧水（ばんじんすいゆうすい）

番神堂という祠の裏手から湧き出す湧水で、その昔日蓮上人がお経を唱えながら地面を杖で突いたところ、こんこんと清水が湧き出したといわれ、昔から住民の大切な生活用水として、水道が引かれた昭和31年頃まで利用されていました。
また、生活用水だけでなく、昭和初期頃までは、近くの酒造所が毎年仕込みの時期になると、大勢の杜氏(とうじ)を使ってこの水を木桶で何回も運んでいたといわれています。

⑥ 座間神社・座間公園（ざまじんじゃ ざまこうえん）

伝説によると、かつてこの地域に悪疫が流行した際に、白衣の老人（飯綱権現の化身）があらわれ、山裾から湧き出る清水を使うことを勧めました。その水を飲むと疫病もおさまり村民は救われました。このことを感謝して飯綱権現を祀ったのが座間神社の起こりと伝えられています。隣接する座間公園は、遠く丹沢の峰々が一望できる見晴らしの良い公園で、座間八景の一つとなっています。